観光・地域振興

民間修学旅行で地域とともに歩む

伊江島ビーチサイドホースパーク

島内の馬愛好家達が在来馬を育成・活用
地域と一体的に営む着地型観光乗馬プログラム

事業の概要

伊江島は、沖縄本島の北部の離島で一周 23km、人口 4,600 人あまりの島である（自治体名伊江村(いえそん)）。四方を紺碧の海に囲まれた自然豊かな小さな島は、沖縄本島からフェリーで 30 分ほど。島にはゆったりした島時間が流れている。

伊江島では、平成 14 年から地域振興策として「民家体験泊の産業化による地域振興」を推進し、修学旅行の民泊での受け入れを積極的に行っており、全国でも有数の実績を確保している。

平成 25 年度の観光客数は、沖縄県全体で 641 万人に対し、伊江島は 13 万 8000 人。うち、修学旅行は県全体で 45 万人弱に対し、伊江島は 5 万人弱と修学旅行の占める割合が極めて高い。伊江島の民泊等の観光による経済効果は年間 5 億円の収益規模にまでに成長している。

多くの修学旅行生が島を訪れる

1.「伊江島ビーチサイドホースパーク」の活動

伊江島では島民の多くが民泊を支えており、島にある資源がそっくり体験商品になっている。

その中に、地域の貴重な資源である「在来馬（与那国馬）」を活かした乗馬体験メニューを造成し、修学旅行生に提供する目的で活動しているのが「伊江島ビーチサイドホースパーク」である。

伊江島ビーチサイドホースパークでは、馬に触れるのがはじめての人や小さな子どもも、馬に乗ってビーチや森林を歩いたり、いっしょに海を泳いで遊ぶことができる。島の森や海、白い砂浜、青い空、優しくて力持ちでまじめな小さな馬たちが島での時間をより思い出深いものにしてくれる。

開放的な海辺で乗馬体験

【乗馬体験】

○こども体験メニュー

馬場内引き馬 約5分・1人乗り 500円

親子乗り加算 1,000円(5歳まで)

ビーチ散歩　約10分　2,000円

森林散歩　約10分　2,000円

○一般メニュー

ミニレッスン　20分　2,500円

○お散歩コース

ビーチ散歩　20分　3,500円

森林散歩　20分　3,500円

ビーチ＋森林散歩　40分　7,000円

ビーチ＋森林＋田舎道散歩　60分10,500円

○上級者限定名所巡り　2〜8時間 25,000円〜

○馬と泳ごう・海馬遊び　40分　14,800円

（地域連携として、民泊の場合、伊江島観光協会から引き馬乗馬体験に対し事業支援として補助費用が適用されている。）

2. 島民の熱い思いと伊江村の政策

かつて、馬は沖縄の重要な輸出品で、その馬を多く産出したのがこの伊江島だと言われている。伊江島は起伏の無い広い台地が広がり、馬の成育に適している。

島内では戦前から農耕用に多くの馬が飼われ、裸馬競走も人気で、馬は島民にとって身近な存在であったが、農業の機械化等により、時代とともに次第に馬は姿を消していった。そのような中、馬を愛し、細々と飼い続けてきた島人たちがいた。そして、もう一度馬と人の暮らしを取り戻そうと、愛馬倶楽部を発足。島中の浜や野道を馬が闊歩し、馬と人が語り合うという伊江島ホースアイランド構想が動き出した。

乗馬復活のきっかけは平成18年。馬の所有者たちが「伊江島馬愛好会」を立ち上げ、翌年に伊江島「愛馬倶楽部」(内間賢生会長)が発足した。もう一度、島に馬と人の暮らしを取り戻そうと集まったのは島中の馬好き20数名、馬の頭数は50頭余りであった。

この発足以来、役場や観光協会などの協力を得て、馬の飼養、調教、乗馬などの勉強会を続け、また動物取扱業の許可を取得するなどの取り組み後、その5月には「伊江島ゆり祭り」で観光客に乗馬体験を提供した。好評を博して本格的に営業を開始することになった。

平成24年、伊江島の自治体である伊江村は「伊江島ビーチサイドホースパーク」を建設した。馬との共生の歴史と継続的な地域の熱い活動に支えられ、自治体が政策的に建設した営業施設である。民間での経営難易度を勘案・危惧し、官有民営方式による指定管理者制度で運営されている。「伊江島愛馬倶楽部」が母体となって「伊江島ホーステラピー有限責任事業組合」を設立し、のちに指定管理者となって運営している。

3. 地域の馬文化継承としての活動

体験乗馬の他、村内小学生・中学生の乗馬教室や村内幼稚園の体験乗馬、地域イベントの際の体験乗馬など、村民が馬とふれあう機会を積極的に作り出している。

さらには 70 年ぶりに復活した琉球競馬「ンマハラシー」への参加選手の育成にも取り組み、特に小学生など底辺拡大と教育指導に注力しており、地域の馬文化継承としても活動している。

乗馬体験のほか、馬を使った癒し、アニマルセラピーなども提供している。

運営体制等

スタッフ数：2 名
所有馬：与那国馬 3 頭、御崎馬 1 頭、中間種 3 頭、クォーターホース 2 頭、アパルーサ 1 頭、（計 10 頭）
馬場：角馬場 1 面、丸馬場 1 面、ビーチまで 100m
営業時間：午前 9 時～午後 6 時(冬 5 時)
年間利用者数：平成 27 年実績 3, 539 人
民泊利用者の比率：35%程度

背景（地域連携、展望等）

観光が伊江島の成長戦略

1.　民泊による島おこし

伊江島の産業は、サトウキビのほか、タバコ、花木、肉牛などの農業生産が中心だが、観光業も盛んで、第一次産業と第三次産業の従事者比率はほぼ同じである。

「民泊による島おこし」は、バブル崩壊による公共事業の終焉に対する危機感からであったという。観光事業は何よりも、村外へ進学する高校生へ仕送りする為の現金収入になる。旅行会社からの提案がきっかけとなって立ちあがったが、民泊受け入れ側への説得、既存の宿泊業界との調整が必要であった。修学旅行の単位は 100 人規模である。民泊は、普段の客層とは宿泊目的やスタイルが異なる。ホテルの部屋に宿泊することではなく、「民家体験宿泊」してもらう。島外の高校へ進学する子どもの「部屋が空く」ことも受け入れやすい環境であった。

2.　島全部を体験商品にするための取り組み

伊江島は沖縄本島からフェリーで 30 分（本島本部（もとぶ）港より）という絶好の位置もあって、修学旅行にとってはこの隔離感と目的・テーマが明確に設定しやすい利点がある。

まだ「着地型観光」という言葉すら馴染みのない頃からの取り組みであり、集客活動を続けてきている。成長の材料には「着手が早い」ということが不可欠である。伊江島には「ゆり祭り」、「伊江島マラソン」などのイベント型、本部港からのフェリー日帰り型、そして民泊などの家業体験の 3 つの柱があるが、何よりもこの家業体験に最大の特徴がある。

＊（一般的のグリーンツーリズムに見られる農業や漁業といった第一次産業に限らず、伊江島では美容院や商店などのサービス産業が含まれる形で「家業体験」と称されている。）

漁業体験

農業体験

三線体験

酪農体験

工芸体験

琉装・ぶくぶく茶体験

3.　広域的な連携の組み立て

本島と結ぶフェリーを活かし、本島の北部エリアの観光資源と連携した観光圏を形成することで、需要の拡大とともに宿泊能力を補完し、相互送客を図っていく。

伊江島の遠景

地域の宝（在来馬）の活用

沖縄には現在、宮古馬と与那国馬の２種類の日本在来馬がある。在来馬は長い年月の中で、その土地の気候風土に適応してきており、丈夫で飼いやすい。また農作業などでの長年の人との関わりを通して築いてきた関係性から、性格も日本人に馴染みやすい。また、大きさ（馬格）も小柄であり、初心者用の乗馬用としての適性がある。

修学旅行での民泊体験は「学び」「気づき」「感じ取り」など、子ども達自身の手応えが大切である。地域に残る馬文化を伝えることで子ども達の馬への関心を高め、馬と人との関係に気づき、今とこれからにとって何かを感じることができれば、それがこの施設の目的を果たすことになる。「学び」の継続的追求の視点を持ち続けることが重要である。

また、伊江島だけでなく、沖縄全体に残る馬文化をテーマにした共同の観光商品を造成することに取り組んでいくことも期待される。受け入れ体制の拡充と体験メニューの一層の磨き上げに取り組み、質の向上を目指している。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

伊江島観光協会
〒905-0503 沖縄県国頭郡伊江村川平 519-3
(URL)http://www.iekanko.jp/　highlight/btn_08
(TEL) 0980-49-3519